

鶴巻古墳(伊勢崎市)

前方が鶴巻古墳/史跡公園となっている/東側から西方向に見たところ



標柱と説明板が立っている



鶴巻古墳

古墳は古代の豪族達の墓であると同時に、権力と地域支配の象徴でもありました。ここから境町淵名地区にかけての地域には淵名古墳群と呼ばれる70基以上の古墳が確認されており、この地域を支配した豪族達がいたことを物語っています。

鶴巻古墳はその北端に位置し、直径34m、高さ2・5mの規模をもつ6世紀末頃の円墳です。現状では何も残っていませんが、築造当時は墳丘の裾に円筒形の埴輪や馬・人物等の埴輪が配置され、周囲には堀がめぐらされていたことが、昭和四十三年に行われた発掘調査によって判明しています。

内部にある両袖型横穴式石室は全長5・2m、最大幅2・1mの規模を有し、羨道と遺体を納めた玄室とにより構成されています。天井は凝灰質砂岩の巨石5個を使用し、壁は側壁・奥壁とも浮石質紡錘状角閃石安山岩を削って互目積しています。この浮石質紡錘状角閃石安山岩という石は、6世紀代に起こった榛名山二ツ岳の噴火による火山弾であり、それが古利根川（現在の広瀬川に沿ったあたりを流れていたと考えられています）によって運ばれてきたものをこの地まで運んで加工したものです。

この古墳は盗掘にあったため出土遺物はわずかであり、小規模で被葬者も判明している訳ではありませんが、石室の築造技術とその優美さにおいて、群馬県下に比類なき優れた古墳です。

平成3年7月

伊勢崎市教育委員会

ASITAを走ろう

ASITAカルタで結ぶサイクリングロード



平成に
よみがえる公園
鶴巻古墳

鶴巻古墳 (東村指定重要文化財)

6世紀末に築造された直径約34mの横穴式石室竪石型古墳で、東西側に石室が開口している。昭和43年の発掘調査では、首飾りや刀子、馬具等が出土した。石室は、奥行き5.2m、高さ2mで、横山コブ岳の角閃石から石を採りてあり、平成8年度に史跡公園として整備された。

読み札作者……… ASITAかるた制作委員会

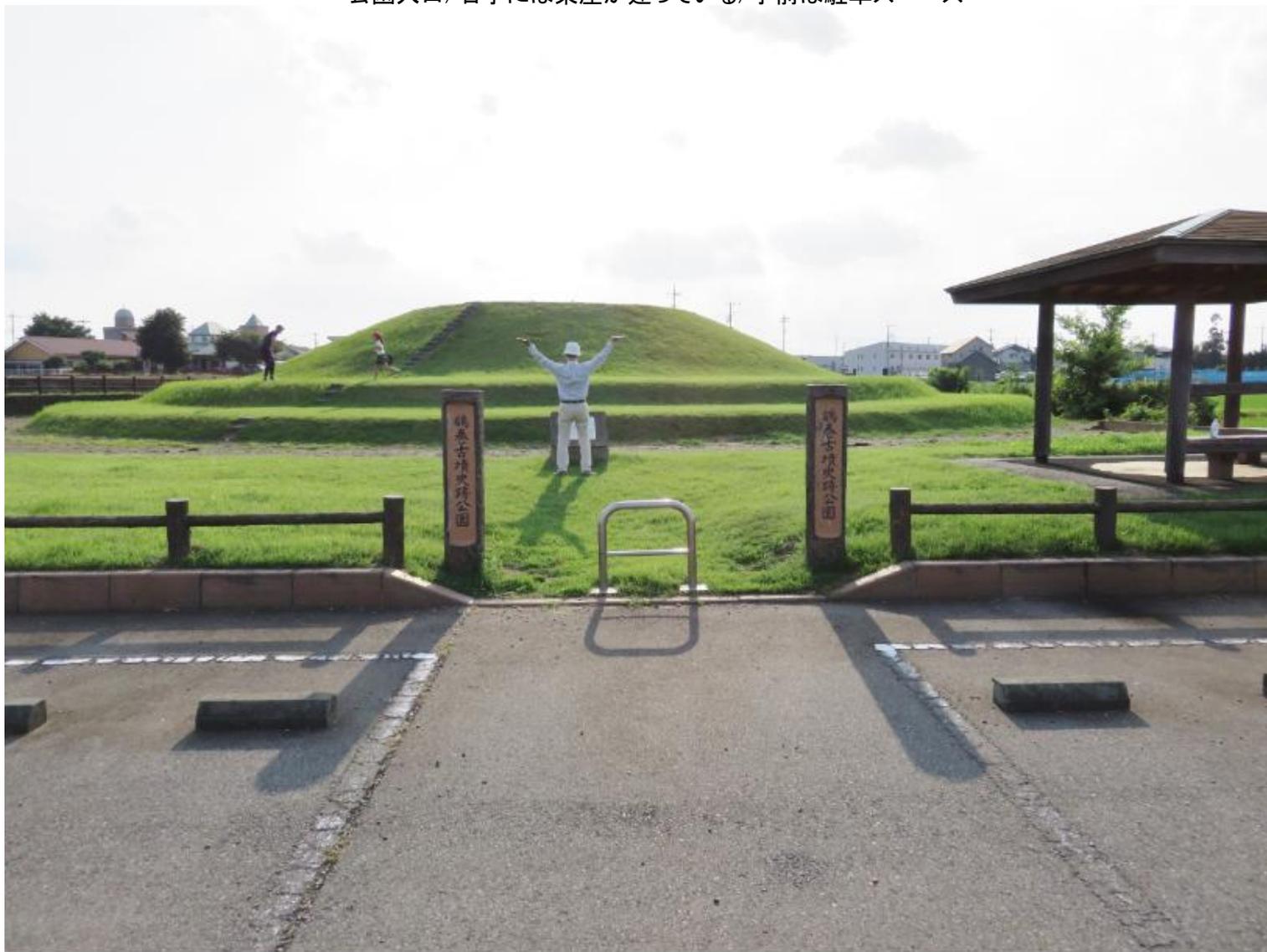
Tsurumaki Tomb (a designated important cultural asset in Azuma)

A scallop-shaped stone room cavi-type tomb of diameter approximately 34 meters, and built of the kind of the 6th century. The entrance to the stone room is on the south-western side. And excavated inventory in 1968, things like necklaces, swords and horse harnesses were found. The stone room is 5.2 meters wide and 2 meters high. Made using stone from Mt. Haruz, in 1996 it was made into a historical park.



伊勢崎市あずま支所 TEL 0270-62-1311

公園入口/右手には東屋が建っている/手前は駐車スペース



墳丘は二段築成となっており、南西側に横穴式石室の入口がある/周堀が巡る/北東側から見たところ



北側から見たところ





伊勢崎市指定史跡 つる まき こ ふん 鶴巻古墳

下谷地区のこのあたりには、古墳が35基以上あります。これらの古墳はいずれも古墳時代後期(今から約1400年以上前)に造られたものです。残念ながら今ではほとんどの古墳が消滅してしまい、姿をとどめるものはこの鶴巻古墳だけになってしまいました。しかし雑草が生い茂げり、墳丘も崩れかけていて自由に見学することは出来ませんでした。

そこで東村では、この貴重な古墳を往古の姿に戻し、後世の人々に永遠に遺してゆくため、3ヵ年計画でこの鶴巻古墳の整備を行いました。平成6年度には用地を購入し、平成7年度には古墳の本来の姿を知るために発掘調査を実施し、その結果をもとに史跡公園として設計を行い、平成8年度に復元整備の工事を実施したものです。

発掘調査の結果、これまでまんじゆん円墳といわれていたものが実は北西方向に小さな造り出しがある、帆立貝形ほたてがいがたの古墳であることが判明しました。東側は開田のため破壊されていましたが、南から西側にかけて古墳を区画するための周堀しゅうぼりが見つかりました。古墳の規模は、周堀の内側で東西方向35.5m、南北方向32.5mありますので、周堀を含めた実際の姿はもっと大きいものになります。

墳丘は2段になっており、下から2段目に横穴式石室よこあなしきせきしつの入口があります。この入口の周囲には、約80cmの間隔で円筒形の埴輪はにわがおかれていました。墳丘の高さは周堀の底面から5mと推定しましたが、周堀が地下1mの深さで保存されているため、現在の高さは4mになっています。

周堀は小砂利を敷いて平坦面とし、墳丘には芝を張り階段を設置しましたが、これらは便宜上設置したもので、古墳本来の姿ではありません。

平成9年3月

伊勢崎市教育委員会

同じく右手を見たところ



これは南西側から見たところ/正面前方には横穴式石室の入口が見える



この左手(北西方向)は小さな「造り出し」で、帆立貝式前方後円墳の所以である



これが「造り出し」部分



アップで見たところ



反対側から見たところ



さて、横穴式石室を見てみよう



横穴式石室

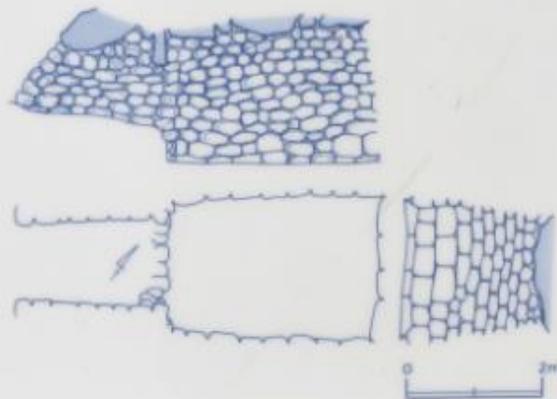
この古墳の横穴式石室は、遺体を安置する部屋である玄室と通路である羨道とに分かれています。羨道は長さ2.25m、幅1.23m、高さ1.2mあります。玄室は幅が広く、床も一段下がっており、長さ3.15m、幅は2.15m、高さは2.05mあります。

石室の壁には、角閃石安山岩という石が使われています。この石は、実は榛名山二ツ岳の軽石なのです。6世紀の中頃、榛名山二ツ岳は大噴火を起こしましたが、そのとき噴出した軽石は利根川(当時は今の広瀬川あたりを流れていたようです)に押し出して流れていきました。

この軽石を利根川からここまで運び、上下左右と正面の五面を削り、大きな石は下にして互目状に積み上げたもので、極めて美しい横穴式石室です。

天井石には、凝灰質の大きな砂岩が4個使われています。この石の産地は不明ですが、遠くからはるばる運んできたものと思われます。

発掘調査の結果、内部からは刀寸や鉄鏃などの武器、轡などの馬具、金銅製環などの装身具類のほかに歯や骨片なども出土しました。



この石室に葬られた人物は、古墳の規模や優れた築造技術からして相当に力がある、おそらくはこの地域を治めていた豪族のひとりだったのではないかと思います。

平成9年3月

伊勢崎市教育委員会



羨道から玄室を見たところ



互目状に積まれた奥壁/榛名山ニツ岳の軽石である角閃石安山岩が使用されている



これは墳頂に登って南西方向を見たところ



その先の下は横穴式石室の入口



これは北西方向を見たところ



その先の下に「造り出し」が見える



これは北方向を見たところ



東屋が見える



その右手を見たところ



参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/azuma_turumaki/

<http://www.city.isesaki.lg.jp/www/contents/1355451208737/index.html>

http://www.go-isesaki.com/Park_Tsuru.htm

http://suto.at.webry.info/201310/article_2.html

https://blogs.yahoo.co.jp/toroi44329/14617511.html?_vsp=6ba05be75Y%2Bk5aKz77yI5LyK5Yui5bSO5biC77yJ

<http://www.gunmaibun.org/remain/guide/tyumo/turumaki.html>

